

2022年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 城所 海 ]

学年・組・番号 [ 3年 K組 12番 ]

研究課題： 日本の観光鉄道から考える、北海道の赤字路線の再興方法の提案  
(英文) Proposals on how to revive Hokkaido's loss-making railroad lines, based on Japan's sightseeing railroads.

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

私は北海道での赤字による鉄道路線廃止の動きに注目した。国鉄が民営化し、JR北海道が発足した1988年と比べてもかなりの路線が廃止されており、最近でも留萌本線の一部区間の廃止や函館本線小樽-長万部間の廃止が決定した。鉄道は日々の生活の足であり、観光の手段でもある。赤字に伴う鉄道路線の廃止が続く北海道で鉄道路線を再興させることは緊要の課題だといえる。私は再興方法の手段として観光化を提案し、観光路線の側面を持つ長野電鉄・嵯峨野観光鉄道・東武鉄道の3路線を分析した上で、道内で最も赤字額が大きい函館本線長万部-函館間をモデル線区として比較し、再興方法を探った。また、本奨励金を用いて、道内唯一の第三セクターの鉄道会社の道南いさりび鉄道と、北海道新幹線敷設と沿線の函館本線存続問題という二つの真逆ともいえる問題を併せ持つ長万部町(新幹線推進課)に取材訪問を行い、再興方法の作成に役立てた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

SL運行による観光化という仮説を立て、この仮説をもとに取材訪問を行った。道南いさりび鉄道には、観光面での努力や赤字回復の方法を尋ね、長万部町には函館本線存続問題の今後などについて伺った。道南いさりび鉄道はフリーパスの発行や観光列車「ながまれ号」の運行などを行っており、観光客だけでなく沿線住民の観光目的の利用を促すことで収益を改善する方針だという。長万部町は鉄道路線の維持費や町民のバス路線転換賛成意見の多さからバス転換案を推しており、道内の物流シェア8割を占める、重要な従函館本線の貨物列車については、独自の「貨物新幹線計画」という新幹線による鉄道物流計画を提案していた。鉄道の今後に対する方針は対照的だが、両者とも真剣に鉄道問題に取り組んでいた。予算の捻出などの理由でSL導入は難しそうだが、本取材訪問で北海道の鉄道路線の経営の厳しさを時間することができ、有意義な物であったと考えている。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3年K組12番 城所 海

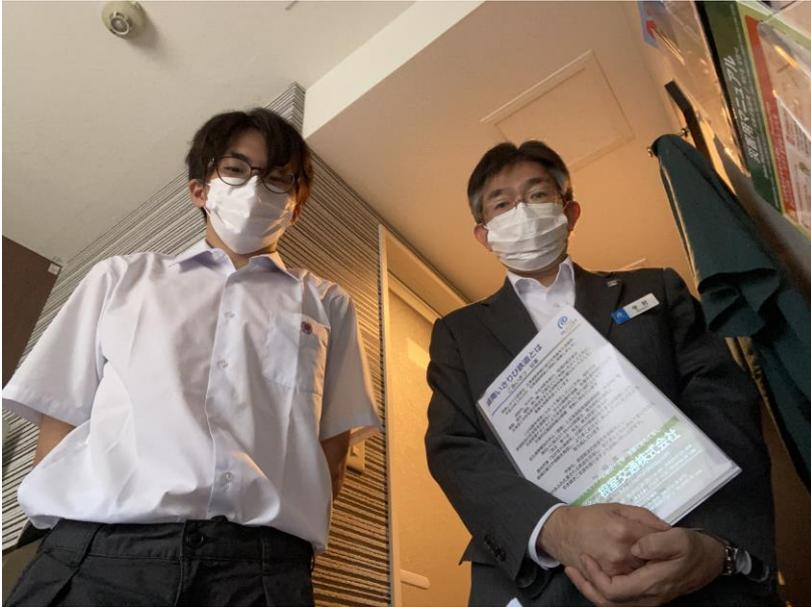
研究分担者

担当教諭 中山 匡 (受給額： 35000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します  
(次のページに続きます)

**研究成果写真：**

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



**道南いさりび鉄道の今村様**



**長万部町新幹線推進課の岸上様**

以上